

少し前のことだが、欧州で日本と欧州連合（EU）の間の経済連携協定（EPA）についてセミナーを行ったとき、欧州側のある参加者が次のようなコメントをしていた。

「欧州は数年前までは欧州域内や周辺国との経済統合を進めることに全力を傾けていた。しかし、この数年は域外の主要国との経済連携協定（自由貿易協定）を積極的に進めることに重点を置いていた」

そしてこう続けた。「その最初が韓国との自由貿易協定（FTA）であり、カナダとの包括貿易協定が締結に近づいている。この先日本と自由貿易協定の交渉



伊藤元重の

## ニュースな見方

を始めようとしている。そ

一方の米国であるが、オバマ政権は来年秋の中間選挙までに通商政策で大きな成果を挙げたいと考えているようだ。その中心は、アジア太平洋の多くの国が参加する環太平洋経済連携協定（TPP）であり、EU

に大きな自由貿易地域のネットワーキングが形成されることになる。これは、関税を撤廃するという従来の自由貿易協定にとどまらず、サービス協定、投資協定、政府調達など、相当に踏み込んだ内容になるだろう。

しかし今やそうした状況のかがどうかという議論はあるだろうが、これが現在のグローバルな「ゲームのルール」となっていることを認識しなくてはならない。そのゲームに参加しないという選択肢は日本にはないはずだ。

やEUのよう

今月下旬に日米首脳会談を控え、TPP反対派の声を高まっている。個別の利害ばかりを主張して、声高にTPP反対を叫んでいる人たちは、国益ということ

を考えているのだろうか。グローバル社会の現実が分かっているのだろうか。

（東大大学院 経済学研究科教授）

# 世界のゲームに背向けるな

## EPA 通商ルールの核に

うだが、EUと米国は自由貿易協定である。貿易協定の交渉開始を模索している。この自由貿易協定が成立すれば、世界の通商ルールに大きな影響を及ぼす存在となるだろう。

米国を中心として主要地域

特定の国や地域が域内の関税を撤廃する自由貿易協定は、世界貿易機関（WTO）の下での通商体制の例外として始まった。WTOの仕組みがあくまでも中心にあって、自由貿易協定は特定の国が関わる例外的な規定であると考えられてき

に關わるだけでなく、大國の協定が確立する可能性も見えてきたのだ。こうなると、自由貿易協定はグローバルな通商システムの中核となつて

全体に通商システムの将来

\*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。